2023.03.23.　木曜礼拝

「祈り方　哀歌５章」

JD ファラグ牧師

共に祈りませんか？　天のお父さま、主よ、本当にありがとうございます。私たちの中で、イエスに従うと決断をした人達に感謝します。もし、まだその決断をしていない人がいたら、その人が人生で最も重要な決断をすることを祈ります。主よ、今夜、彼らにお語り下さい。主よ、彼らをあなたの近くに引き寄せ、あなたがどんなお方であるかの救いの恵みを受けることができるようにしてください。私たちが共に集まり、あなたの御言葉を学ぶこの時間に感謝します。主よ、励ましてください。今夜、私たちにお語り下さい。主よ、この場所を見守り、私たちをお守りください。J.D.牧師があなたの御言葉を取り次ぐ時、あなたが彼と共に居てください。もう一度、この時間を祝福してください。あなたに感謝します。これらのことを、イエスの御名によって祈ります。アーメン。アーメン、アーメン。

皆さん、こんばんは。ようこそ。どうぞお座りください。オンラインで参加の皆さんも歓迎したいと思います。ご参加下さり嬉しいです。今夜は、哀歌５章です。この書を終えます。5 章からなる超長編の書です。興味深い章です。いつもそう言っているのは分かっていますが、理由はここですぐに分かると思います。祈ったばかりですが、よろしければ、祈りましょう。今夜、神の御言葉の中で共に過ごす時間を祝福してくださるよう神に祈りましょう。私たちが理解できるように主に求めましょう。よろしければご一緒に。

天のお父さま、本当に感謝します。ああ、主よ、これは私たちの時間です。私たちは、あなたが私たちに与えてくださったこの美しい場所に来ることができる木曜日の夜をとても楽しみにしています。忙しい日常から切り離された、休息、聖域のような場所です。人々はとても忙しく、ストレスが多いです。ただ、あなたとあなたの御言葉に再びつながり、互いに交わり、礼拝します。主よ、私たちはこの共に過ごす時間をとても楽しみにしています。今夜も例外ではありません。私たちは、あなたが御言葉の中で私たちのために用意してくださったものを、大きな期待をもって待ち望んでいます。特に、この非常に興味深い章では。ですから主よ、私たちにお語り下さい。私たちはあなたの御声、聖霊の静かな小さな声を聞きたいのです。落胆している人を励まし、力が必要な人を力づけ、知恵を求めている人には知恵を与えてください。主よ、今夜の私たちの時間の中で、あなたがしてくださることに前もって感謝します。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

それでは。この最後の章では、エレミヤは、それまでの 4 章にあった詩的なアクロスティックをやめています。ヘブライ語のアルファベット 22 文字を使ったアクロスティックな形式で、各節、3 章は 3 節ごとに始まり、そのためその章には 66 節あり、非常に詩的に書かれています。しかし、最終章である 5 章になると、エレミヤはそこから完全に離れます。そして、彼は実際に、その代わりに壊れてしまいました。非常に激しくなります。先を読まれた方は、もうお分かりだと思います。しかし、それは非常に酷いものです。この章では、彼はただ祈り、主に向かって苦しみながら叫んでいます。他にどう言えばいいのか分かりません。しかし、そうすることで、聖霊によって、深い痛みや苦しみのある困難な時に祈る方法を私たちに教えてくれます。ここでエレミヤが登場します。その痛みは深く、現実的で、生々しく、彼はどん底にいます。あまりにひどいので、彼は実際に「神は自分を見捨てた」という考え方に陥ってしまいました。さて、冒頭にもあるように、彼はとても興味深い方法で祈ります。しかし、私たちが最後まで行くと、このことについて祈ることになります。それは、クリスチャンの歩みの中で、誰もがどこかで悩むことで

もあります。神は私たちに怒っておられる、私たちに背を向けておられる、私たちを完全に忘れ、見捨てておられる、と考えることです。この章では、エレミヤは今夜、このような状況にあります。さて、祈るときにこのような気持ちになるのは試練の中でよくあることです。しかし、それは神のご性質と相容れないものです。それは神の御言葉と相容れないものです。このことはこれから見ていきますが、エレミヤにあまり厳しくし過ぎないようにしましょう。彼は本当に嘆いており、どん底にいるからです。そんな苦しみの中にいると、自分がどう反応するのか分かりません。本当に苦しんでいる人たち、深い痛みを抱えている人たちが、私たちにとって予想外の方法で反応するのを見たとき、私たちは大きな間違いを犯すと思います。私たちは、「あなたの信仰はどこにあるのか」というように、相手を違った目で見る傾向があります。個人的な例で申し訳ないのですが、娘が亡くなるとき、私たち夫婦はとても深い痛みと苦悩の中にいました。自分自身の反応も、感情が非常に生々しいものでした。自分の反応の仕方に、はっとさせられたほどです。誰かが深い苦しみを味わっているのを見たとき、何も言わないのが一番いいということもあるのだと思います。繰り返しますが、これがエレミヤが置かれた状況です。しかし、神は今夜、エレミヤをこの章のページから立ち上がらせ、祈りについていくつかのことを教えようとしておられます。だって、そうでしょう？　このような状況に置かれると、祈りが現実的なものとなることに同意されませんか？　さて、これから現実的になります、本当にすぐに。1 節からすぐに始まります。

ー哀歌　5:1ー

主よ、私たちに起こったことを心に留め（思い出し）**、私たちの汚名に目を留めて、よく見てください。**

1 節からいきなりです。エレミヤは興味深い祈りをしています。「主よ、思い出してください。」神が忘れられたからではありません。想像できますか？「覚えていますか？」神が、「おお、完全に忘れていたよ、エレミヤ！すまない。」違います、それはここで起きていることではありません。もっとこんな感じです。「主よ、思い出してください。」それは嘆願であり、祈りであり、憐みを求める叫びです。「主よ、私を憐れんでください。私を思い出してください。どうか私を忘れないでください。」なぜこれが重要なのでしょう？　なぜなら、考えてみ下さい。十字架上の盗人も同じように憐れみを叫びました。ルカの福音書 23 章 42 節です。彼は言います。「イエス様、あなたが御国に入られるときには、私を思い出してください。」なぜ彼はそのように言い、祈ったのでしょうか？「私を思い出してください」？　これは憐みを求める叫びです。彼が祈っていないこと、エレミヤが言っていないことに注目してください。それは、「主よ、救い出してください」ではなく、「主よ、思い出してください」です。「でも、待ってください、牧師さん。イエスは私たちに『私たちを試みに会わせず、悪からお救いください』と祈ることを教えられませんでしたか？　その通りです。救い、解放の祈りを捧げる、そういう時があります。しかし、今回はそのような場面ではありません。想像できますか？私たちは親しみを込めて、彼を「十字架上の盗人」と呼んでいますが、彼の罪が何であったのか本当は分かっていません。斧による殺人だったのかもしれません。そんなイメージを持たせてしまってすみません。もう二度と彼を同じように見れないでしょう。彼は十字架にかけられ、死刑になります。彼はイエスに、「私を救い出してください」とは言いません。違います、彼は「私を十字架から救い出してください」ではなく、「私を思い出してください」と言います。実際、私の記憶違いでなければ、もう一人の男がそう言いました。「もしお前がキリストなら、この十字架から降りてみろ。」「私を救い出してください」ではなく、「私を思い出してください」もしくは「私を憐れんでください」これは、私たちに対する主の御言葉を思い出してほしいという叫びです。それが私たちの唯一の希望だからです。詩篇 119 篇 49 節に注目していただけますか。この詩篇は、私がずっと大好きな詩篇

の一つです。すべての詩篇についてそう言っていますが、この詩篇は特にそうです。イスラエルの甘美な詩人であるダビデがこう言います。

ー詩編　119：49ー

どうか　あなたのしもべへのみことばを心に留めてください（思い出してください）**。あなたは　私がそれを待ち望むようになさいました。**

言い換えると、これは何も問題ありません。主のお約束、しもべであるあなたへの御言葉を主に思い出してもらっても良いのです。繰り返しますが、主は忘れてはおられませんが、それはあなたの唯一の希望です。エレミヤは、「おお主よ、あなたは私の唯一の希望です。なぜなら、この状況はとても危うく、絶望的だからです。」2 節から生々しく、描写されています。

ー哀歌　5:2ー

私たちのゆずりの地は他国人（エイリアン）**の手に…**

ああ、最近よく聞くようになりましたね。これはそういうことではありません。

…私たちの家は異国の民の手に渡りました。

ー哀歌　5:3ー

私たちは父のいないみなしごとなり、母はやもめのようになりました。

ー哀歌　5:4ー

私たちは自分の水を、金を払って飲みます。薪も、代価を払って手に入れます。

つまり、以前は水の代金を支払う必要がなかったということです。それは、カルデア人があらゆるものに課税し、それまで自由に豊かに楽しんでいたものに代価を支払わせていたと推測されます。

ー哀歌　5:5ー

私たちはくびきを負って、追い立てられ、疲れ果てても憩いを与えられません。

ー哀歌　5:6ー

私たちは十分な食物を得ようと、エジプトやアッシリアに手を伸ばしました。

7 節は興味深いです。

ー哀歌　5:7ー

私たちの先祖は罪を犯し、今はもういません。彼らの咎は私たちが負いました。

何て？　お～、これは、父の罪の代償を子どもが払っているように聞こえます。このことについては、簡単に説明したほうがいいかもしれません。代々の呪いという誤った教えを支持する人たちによって、文脈から取り出されているからです。代々の呪いとは？　父親、先祖、両親の罪が子どもによって償われることです。その咎が。ええ、出エジプト記と申命記を読むと、実際、出エジプト記 20 章の第二の戒めで、神は「父の咎を二代、三代に及ぼす」と述べておられます。なぜか？先祖の罪のために、世代を越えて彼らに報いを受けさせられます。なぜか？ 彼らに憐みを示すためです。なぜなら、先代の罪が被るからです。その親の罪の結果は、2 世代、3 世代と深く子どもたちが苦しむことになるのです。神は仰います。「わたしは、憐みを示すため咎人を訪ねる。彼らはそれが必要だからです。」それが神の憐みです。神は憐みを示すために咎人を訪ねられます。神は憐み深い神であられます。ところで、代々の呪いという誤った教えに反論する場合、ただ論理的に、これが単純化しすぎでなければいいのですが、しかし、イエスが全額を支払らわれ、十字架で完了され、そのすべてが壊されたということは、論理的に考えても当然ではないでしょうか。もしそうでなければ、イエスは「 完了した 」と仰ることはできなかったのです。呪

いは砕かれました。罪の呪いをご自身の身に受けてくださいました。人類の罪を。ですから、それは砕かれました。しかし、次の世代に受け継がれる結果があるのです。そして、先祖たちの罪のために、子どもたちが不必要に、無用に苦しむのは、悲しいことです。しかし、実はその咎を負っていた子どもたちは、先祖の罪を繰り返していたのだということが、これからわかります。

ー哀歌　5:8ー

奴隷たちが私たちを支配し、彼らの手から解き放ってくれる者はいません。

ー哀歌　5:9ー

荒野には剣があり、私たちは、いのちがけで食物を得ています。

ところで、最近、訪問していたオンラインメンバーと会話していて、9 節をほぼそのままに、「外はとてもひどいので、外出するときは全員武器を持たなければならない」と説明していました。学校の教師は武装しなければなりません。あまりにもひどく、彼らは命がけです。無法地帯と暴力はとてもひどく、悪化しています。ここではユダが、飢えで死にかけていて、餓死しそうです。彼らは命がけで外に出て、何か食べるものを手に入れようとします。それほど酷かったのです。

ー哀歌　5:10ー

私たちの皮膚は、飢饉の激しい熱で、かまどのように熱くなりました。

11 節は辛いです。

ー哀歌　5:11ー

女たちはシオンで、おとめたちはユダの町々で、辱められました。

彼らは暴行しました。

ー哀歌　5:12ー

首長たちは彼らの手で木につるされ、長老たちは尊ばれませんでした。

ー哀歌　5:13ー

若い男たちはひき臼をひかされ幼い者たちは薪を背負ってよろめきました。

ー哀歌　5:14ー

長老たちは、城門のところに集まることを、若い男たちは、楽器を鳴らすことをやめました。

ー哀歌　5:15ー

私たちの心から喜びが消え、踊りは喪に変わりました。

ー哀歌　5:16ー

冠も頭から落ちました。…

特に 16 節の終わりに注目していただきたいと思います。

…私たちは、ああ、罪ある者となりました。

これです。「いいえ、これは私たちの責任です。私たちは罪を犯しました。災い、呪い、哀しみ、嘆きが私たちに。」ここにも、真の悔い改めにつながる神の御心に添った悲しみによる祈りのあり方が示されています。悔い改めの定義について、よろしければ、少し時間を取らせてください。非常にシンプルです。考えを改めるということです。私たちは完全に誤解して、悔い改めを何か違うものに変えてしまっているのではないでしょうか。それは、自分の考えを変えることです。それが悔い改めるという意味です。さて、これは神の御心に添った悲しみです。2 種類の悲しみがあります。使徒パウロが第二コリント人への手紙 7 章 10 節でこう書いています。

ーⅡコリント　7:10ー
神のみこころに添った悲しみは、後悔のない、救いに至る悔い改めを生じさせますが、世の悲しみは死をもたらします。
つまり、真の悔い改めにつながるとき、それが神の御心に添った悲しみであることを知ることができます。なぜなら今、変化があるからです。悔い改めが起こりました。これは神の御心に添った悲しみです。この世の悲しみは、バレること、捕まることへの悲しみです。また渋滞の例えを使わなければなりません。私は自分の罪を次々と告白してきました。でも、ここでも。私はほとんど勝利の中を歩んでいることを知っておいてほしいんです。神は赦しの神です。私は車を止められます。私は車を止められませんでしたが、仮にそうしましょう。私は地域社会の立派な市民であり、責任を持って運転し、国の法律を遵守しているからです。というのも、何しろ私は牧師だからです。だから、説明のために、私が車を止められたとしましょう。警察官がやってきて、もちろん、運転免許証と登録証、ビサカードの番号とソーシャルセキュリティ番号を聞かれます。そして、私の口から最初に出てくる言葉は何でしょう？「申し訳ありません。」本当に？　何に対して申し訳ないと思っているのでしょうか？　ああ、私があなたを捕まえて引き止めたことを申し訳なく思っているのですね。それが神の御心に添った悲しみでないことは分かります、なぜなら、もしそれが神の御心に添った悲しみであったなら、あなたは運転習慣を変えるはずだからです。その点と点がつながったでしょうか？それは、本物の変化につながる神の御心に添った悲しみです。本当に反省しているのであれば、考えを改め、運転習慣を改めるはずです。それが神の御心に添った悲しみの判断基準です。エレミヤが今ここで表現したのは、本物の、神の御心に添った悲しみです。
ー哀歌　5:17ー
このために、私の心は病みました。これらのために、目は暗くなりました。
ー哀歌　5:18ー
荒れ果てたシオンの山の上を、そこを狐が歩き回っています。
今まではそんなことなかったのに、ユダの荒廃の中で、彼らは暴れ出します。その惨状と荒廃の様子がただ表現されています。19 節でエレミヤが祈ることに耳を傾けてください。
ー哀歌　5:19ー
主よ。あなたはとこしえに御座に着かれ、…
ここまでは良いですね？
…あなたの王座は代々に続きます。
20 節。ここで一気に流れが悪く変わります。
ー哀歌　5:20ー
なぜ、いつまでも私たちをお忘れになるのですか。私たちを長い間、捨てておかれるのですか。
ああ、エレミヤ。本当に傷ついていたことでしょう。私も経験しました。分かります。つまり、神は昨日も今日も永遠に同じであると認めているのです。神の御座は代々に渡って永遠です。しかし、なぜ私たちを永遠に忘れてしまったのでしょうか？　つまり、エレミヤはとても苦しんでいて、実際に、神は自分たちを長い間見捨てておられると信じています。
「主よ、いつまで私たちを忘れ、見捨て、拒絶されるのですか？」さて、ここでも、エレミヤにあまり厳しくしないようにしましょう。ヨブのことを考えると、彼の友人たちは、何も言わないときは、素晴らしかったのです。そして、彼らが口を開くと…なんということでしょう。彼らはヨブを攻撃します。ヨブ

を見下して。ここで、この男は…想像してみてください。これは本当に起こりました。ヨブはゴミの山にいます。悪臭だけでも。彼はまだその臭いを感じれるでしょう。嗅覚が五感の中で最も強力なのは、脳のある部位に入り込むからで、だからこそ、ある匂いを嗅ぐと、瞬時に記憶がよみがえるのです。それほど、匂いは強力なものなのです。そこでヨブは、その悪臭を一身に浴びています。頭のてっぺんから足の先まで、腫れ物やただれができていると書かれています。あまりにもかゆいので、そのゴミの山から割れた土の器を取り出し、掻き始めます。生々しくしたくないですが、体中をかきむしっているんです。そして、この友人たちはこちらでこう言います。
「ああ。あなたには自分の人生の中で告白していない罪があるはずだ、兄弟よ。神はあなたを罰しておられる。」ヨブは、「ここで助けてくれないのですか？　それが何なのか、教えてください。なぜなら、もしそうなら、主をほめたたえます。悔い改めて、終わりです。」
違います。ポイントは何か？　信じるか信じないかは別としてポイントはあります。私のポイントはこれです。あなたの人生に、本当に悩んでいるエレミヤがいるはずです。彼らにあまり厳しくし過ぎないでください。彼らは信仰の危機を経験しています。疑いが絶望に変わり、その絶望が神の善良さを疑うに至ったのです。それがここで起きていることです。エレミヤは私たちのようです。私たちも彼と同じように、自分の状況があまりに悪く、良いお方である神と矛盾しているときに、このように祈りがちです。それがここで起こっていることです。これは本当に酷いです。この説明、そして正義ではありません。私はそれを読み、それを説明し、それを解説しようとするだけで、おそらく正当性はないでしょう。エレミヤはそれを生き、それを描写しています。そして今、問いかけています。
「神さま、私はあなたが良いお方だと知っています。あなたの王座は代々に永遠に続きます。しかし、この状況を見ていると、今起きていることのすべてに矛盾を感じてしまいます。」
私が主との歩みの中で学んでいることのひとつは、どんなに悪いことがあっても、神がどれほど良いお方であるかは変えられないということです。締めくくりに、またこの話に戻ります。あなたの状況がどれほど悪かったとしても、非常に悪いのですが、しかし、それは、神が常に良いお方であるという最終決定権を持つことはできません。私たちは、自分の状況を神のレンズを通して見るのではなく、自分の状況のレンズを通して神を見るとき、大きな間違いを犯します。なぜなら、間違った方法で行い、さらに間違った方法で祈ると、その試練を大きくし、あなたの神を小さくしてしまうからです。するとさらに悪化し、今度は、神はもう良いお方ではないかもしれないと。それがエレミヤに起こっていたことです。もう一度、どうか、皆さんにお願いします。自分自身も含め、彼に厳しくし過ぎないように。私ならきっと…いや、私がしたであろうことは、言いませんが。霊的な目で見ないでください。皆さんは、きっと私より酷いでしょう、 というのも、私は牧師ですから、皆さんより霊的なはずですよね？　違います。私は何度もそうしてきたように、赤ん坊みたいに泣きながら、うつぶせになって、胎児のようになります。
この偉大なる信仰の持ち主。「ああ、神よ、これは酷いです！」「ええ、でもわたしは良い者です。」「分かっていますが、でもこれは酷いです！」「ええ、でも、わたしは良い者です。わたしは常に良い者です。」「ええ、でも神よ、それは知っていますが、これは本当に酷いんです！」（泣く）
さあ、自分に正直になりましょう。それはこんな感じです。もう一度自分を使います。皆さんのために犠牲になります。神がこう言っておられるようです。
「J.D.、もしあなたがわたしがすることを知っていさえいれば、あなたはそんなことはしなかったでしょう。もしあなたが知っていさえいれば。知っていさえいれば。」

「ええ、知っています。あなたは良いお方で、それを働かせて益としてくださると知っています。でも、これは本当に酷いんです！」
今、あなたが何をしたのかわかりますか？ 「牧師さん、自分のことですよ。」ええ、私が今何をしたか分かりますか？　私は今、悪いことを良いお方である私の神より優先させたのです。21 節と 22 節。
ー哀歌　5:21ー
主よ、あなたのみもとに帰らせてください。そうすれば、私たちは帰ります。昔のように、私たちの日々を新しくしてください。
ー哀歌　5:22ー
あなたが本当に、私たちを退け、極みまで私たちを怒っておられるのでなければ。
終わりです。ー（笑）ー　どうですか？　言っておきますが、主は私の心をご存じです。私は、「主よ、本当ですか？　23 節はどこですか？　23 節はありません。でも、23 節があるべきです。このままにされるのですか？」そうです。では、これをやり遂げましょう。正直なところ、こんな終わり方はしないでほしかったというのが本音です。しかし、分かった気もします。というより、なぜこのような結末になるのか、主が私に理解を与えてくださったというべきでしょう。もしよろしければ、この点に関して、その考えをいくつかお話ししたいと思います。まず、21 節に注目下さい。エレミヤが祈っています。これは良い祈り方です。「主よ、あなたのみもとに帰らせてください。」「待ってください。自分自身がすべきことを、主にしていただくのですか？」
待ってください、時には何もできないほど絶望することもあります。その時、主は駆けつけてくださいます。「主よ、あなたが私をあなたのもとに帰してくださらない限り、私はあなたのもとに帰ることもできません。」それは「神は無力な者を助けられる」という、非常に強力な原理を語っています。私が信者になりたての頃、従兄弟と話をしていた時のことです。実は、私は彼と主を分かち合っていたのですが、彼が私にコメントしたのを覚えています。私はまだ聖書を一通り読んでいませんでした。彼はこう言いました。「いいか、 神は自ら助る者を助く。」私はこんな感じで…「？？？」よく分かりませんでした。「そうなの？待って、どこに書いてある？」「ああ、ヒゼキヤ 1 章だよ。」ただ問題は、『ヒゼキヤ書』がないことです。聖書に書かれていません。実は、その逆が聖書に書かれています。神は、自分ではどうしようもできない人を助けられると。神は無力な者を助けられます。人生にはそういう時期がありますし、この章が「こう終わってほしくなかった」と思うような終わり方をする多くの理由の 1 つだと思います。それは、私たちが完全に無力になるくらいに、深く、落ち込むことがあるからです。使徒の働き 27 章に出てくる使徒パウロのことが思い浮かびます。私は、その記述を読めば読むほど、使徒パウロがすべての人の中でいかに無力であったかをそこに見ることができます。ここで話しているのは、使徒パウロのことですよ。彼は囚人としてローマに向かう船の中にいます。彼らはまた別の嵐に巻き込まれます。これはパウロの初めての嵐ではありません。実は、4 度目です。彼は難破船の博士号を持っています。ですから、ここでまたです。また起こりました。この船は難破しそうです。もうおしまいです。彼らは生き残るためだけに、船からすべてを投げ捨てています。すべての食糧を。そもそも誰が食べるのでしょう？　どうやって何もかも抑え込むのでしょう？　すみません、ちょっと生々しいですが、ここでポイントを説明します。ここで何日も、何日も続きます。実際、ルカは聖霊によって、非常に詳細な情報を書いています。実際、この章全体では、この嵐の中で何が沈んでいったのか、何が海に投げ出されたのか、とても詳しく書かれています。3、4 日の間、食事もできず、夜は何も見えない状態でした。ただこの船に乗っている

だけです。彼らはもうゲームオーバーだと分かっていました。ルカが聖霊によって書いています。
「”私たちが”ついにすべての希望を失ったとき」（使徒の働き　27:20）
待ってください、「私たち」？　誰ですか?　ルカとパウロとアリスタルコがその船に乗っています。パウロでさえも、希望を失っているとルカが書いています。待ってください。パウロは、ローマのカエサルの前に出るという神からの約束が与えられています。こんな終わり方ではありません。パウロが希望を失っていたのですか？　ーそうです。彼は生き残れると思っていないのですか？　ー思っていません。
彼はこれで終わると思っているのですか？　ーそうです。彼はすべての希望を失っているのですか？
ーそうです。では、神はどうなさるのでしょう？　パウロに御使いを送られます。
「パウロ、落ち着きなさい。あなたは生き残ります。」
実はその前に、御使いがパウロに何と語ったかご存じですか？　これはパウロですよ。「恐れてはなりません。」なぜ「恐れるな」と言われたのでしょう？　これには深い意味がありますね。パウロが恐れていたからです。パウロが恐れていたからです。今、まさに使徒パウロがいます。ところで、日曜日にパウロについてお話しします。いや、補足すると、ペテロが日曜日にパウロのことを話します。非常に力強く、何より面白いです。なぜなら、ペテロとパウロが…とにかく、日曜日の説教はしません。続きは、日曜日に来てください。使徒パウロですよ。彼は絶望しています。すべての希望を失いました。
「今回はもうダメだ。別のものは生き残れたが、今回は無理だ。」神はパウロを救われ、彼は生き残ります。パウロが何かしたからではありません。パウロに何ができましたか？　何も。パウロは完全に無力でした。その時にこそ、神が駆けつけてくださいます。無力な者を助けられるからです。
福音書の中で、いつも印象的なのは、イエスが最も劣った人、小さな人、落ち込んでいる人、外れた人、無力な人、絶望する人に惹かれていることです。実際に、イエスは上流階級の者に反発されます。
”あの人たち”　イエスは彼らのために来られませんでした。イエスは偉大な医師です。病人、足の不自由な人、盲人、体の不自由な人のために来てくださるのです。イエスは彼らに惹かれられます。実際、弟子たちはなんだか何度も困惑しています。想像できますか？　ここにイエスがおられ、わざわざ出かけられるのです。私はちょうどこのことを考えていました。実は、ある人がこんな話をしているのを聞いたんです。知ってはいたのでしょうが、こんな風に考えたことはありませんでした。弟子たちは、イエスが政治の舞台に立ち、ローマの圧政から自分たちを解放してくれることを望んでいたということです。イエスはそうなさいませんでした。イエスはどこにおられましたか？　娼婦と食事をし、らい病人を癒し、国税局員、いや、徴税人と食事をしておられます。現代の言葉に置き換えてみました。そこがイエスがおられた場所です。なぜなら、無力な者を助けてくださるからです。エレミヤは無力でした。エレミヤは絶望しています。そうして神は駆けつけられ、無力な者を助け、絶望する者に希望を与えてくださるのです。日曜日の説教で…これが最後です。これ以上は言いません。タイトルは「私のような者にも希望がある」魅力的なタイトルでしょう？　私の手柄ではありません。聖霊です。私の手柄にしたくても、できません。主は私を逃されないでしょう。あなたは「わお！J.D.牧師、あなたはとても賢いですね。」あなたは何もわかっていません。全く違います。私のような者にも希望があります。「私でも？こんな私でも？」そうです。実は、あなたがリストの一番上なんです。「私は無力です。」よかった。よかったです。なぜなら、神は無力な者の神だからです。これがもう一つの考えです。この章がこのように終わるのは、将来の希望という過去の約束を、現在の問題で終わらせないことの重要性を説いているからです。もう一度言います。この章がこのように終わるのは、神が私たちに、現在の問題が将来の希望という過去の約束に最

終決定権を与えることはないということを思い出させられたいのです。エレミヤ 29 章 11 節を考えてください。私たちはこの節が大好きですね。私たちはこの節を引用し、暗唱し、歌います。今日はこんな風に考えていました。こんな風に考える人に臨床用語があるのは知っていますが、ここでエレミヤは、「主よ、思い出してください」と祈り始めます。主は、「わたしに？思い出して？　あなたが思い出したらどうですか？　忘れてしまったのですか？　わたしはこの約束を書くためにあなたを奮い立たせました。覚えていますか？」「ああ、そうです。忘れていました。」

ーエレミヤ　29:11ー

わたし自身、あなたがたのために立てている計画を良く知っている　ー主のことばー。それはわざわいではなく平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。

「エレミヤ、覚えていますか？」「ええ、思い出しました。今、自分の中に蘇ってきています。」ここでエレミヤは、「ええ、それは知っています。あなたがわざわいではなく平安の計画があられることは分かっています。あなたは私に害を与えられません。あなたは私に将来と希望を与えたいと願っておられます。しかし、これは非常に絶望的です。」「またやってくれるね、エレミヤ／J.D.あなたはこれが得意ですね？」はい、そうです。なぜなら、現在の問題がすべてに優先するからです。今、現在の問題が、将来の希望を奪うことを許してしまったのです。そして、現在の問題は、過去の約束を奪ってしまいました。だから今、問題に集中しすぎて、それらはもう議論の対象にすらなっていません。約束を忘れてしましました。将来と約束された希望を忘れてしまったのです。繰り返しますが、詩編 119 編 49 節です。

「主よ、どうか　あなたのしもべへのみことばを思い出してください。それが私の唯一の希望ですから。」約束を思い出すこと。なぜそれが重要なのでしょうか？　なぜなら、考えてみてください。神はあなたにご自身の御言葉を与えておられます。神は約束を破ることはお出来になりません。不可能なのです。もし神があなたに約束されたのなら、あなたに約束されたのですが、神は約束を破ることはお出来になりません。不可能です。それはまた、神がどんなお方であるか、どうなさるのか、神の善良さと矛盾します。神のご性質、神のご性格、神の御言葉とは全く相容れないものです。しかし、私たちが痛みを感じているとき、それは他のすべてに優先します。私たちは基本的に、試練、痛み、苦しみに許可を与えてしまいます。許可というのは、私たちが許可を出したということです。私たちの生活の中で、そのような重要な役割を持つことを許可しているのです。そうすることで、私たちは主を正当な地位から退けてしまいました。主はそれよりももっと大きいお方です。神は良いお方です。あなたはこう言います。

「神よ、私はあなたが良いお方であると知っています。あなたはこっちです。今は、これが中心です。その酷さを見てください。」

「あなたはわたしの将来の希望と過去の約束を、方程式から完全に取り除いてしまったのです。」というのも、これはそのすべてに取って代わったからです。これは実は 3 つ目の考えにつながるのですが、基本的にはこうです：この書は終わりが決まっていない。それをよしとする必要があります。なぜか？なぜなら、私たちの人生には、神がそれを終わりのないままにする必要があると判断されるときがあるからです。なぜ神はそうなさるのでしょう？　おお、分かりません。もしかしたら、私たちに神を信頼することを教えるためかもしれません。ああ、ちょっと待てよ。もし、神が終結させてくださるなら、それなら、最高です。さぁ、先に進みましょう！　しかし、終結しないままの時は、今、あなたは、神を信頼することを余儀なくされているようなものです。あなたは見えません。それが信仰というものですね？　見えることの対極にあるものです。しかし、私たちの人間性、罪の性質、肉の中にあるすべてのものが、その

ことに抵抗します。私たちは、信仰によって歩み、信仰によって生きることを望みません。見えることによって生きたいのです。私はそれを見たいです。ここで区切りを見たいんです。これを締めましょう。これをボタンで留めましょう。これで締めくくりましょう。さぁ…いいえ！それはつまり、今あなたを信頼しなければならないということですか？　その通りです。
今から何年も前のことですが、私の人生の中で、ある時期、ある季節がありました。実は、ここに引っ越してきたばかりの頃でした。そして、この状況は、私が…ただ、それが私を蝕んでいました。私は祈っていますが、…正しい方法で祈っていませんでした。私たちは祈りは物事を変えると言いますが、祈りは祈り手を変えます。まぁ、これはことば遊びですが。分かりますね？　祈りが私を変え、そして私の祈りが変わります。なぜなら、時々祈りが間違っていた場合、神はただ「いいえ」と言われるからです。もしタイミングが間違っていれば、神は「ゆっくりしなさい」と言われます。もし私が間違っていれば、神は「成長しなさい」と言われます。しかし、要望が正しく、私が正しく、タイミングが正しければ、神は「行きなさい」と言われます。まあ、私はいつも青信号が欲しいんです。「行きなさい。さぁどうぞ。行きましょう！」「待ちなさい」は嫌いです。神はいつも私たちの祈りに３つの方法のうち１つで答えてくださいます。「イエス」「ノー」「待ちなさい」私は待つのが嫌いです。なぜ待つのが嫌いなのですか？　なぜなら、不確かだからです。ここが肝心なところです。自分がコントロールできないのです。そうですね？
今、この結末は神がコントロールしておられます。神は、ご自分の栄光のために、ご自分の時に、ご自分の方法で決定されるお方です。私の方法ではありません。私の道は神の道とは違うからです。神に感謝します、そうですね？　神のお考えは私の考えとは違います。私の理解を遥かに超えています。神はまた、私たちが自分自身を知る以上に私たちを知っておられるからこそ、終わりのないままにすることが必要だと判断されるのです。私たちにとって、見ることは信じることです。それは反対です。
イエスは仰いました。「信じなさい、そうすればあなたは見るでしょう。」
「信仰とは、”望む”ものの実体であり、まだ見ぬものの証拠である。」（ヘブル　11:1）
だから、あなたはこのことを見て、「神様、あなたがどうやってこれをなさるのかわかりません。」私は自分自身のことを話しています。神はただ私を見降ろされ、こう言われます。「J.D.、わたしがどうするのか、あなたには分かりませんね？　良いですね。わたしを見ていなさい。ああ、あなたはわたしを信頼しなければなりませんね。そうです。ああ、あなたは今、信仰によって生きなければなりませんね？
「義人は信仰によって生きる」（ローマ　1:17）
ああ、わたしがすることを見るためには待たなくてはなりません。もしあなたがわたしがすることを知っていさえいれば、待っていたいと思うでしょう。なぜなら、あなたは私にしてほしいことを、あなたがしてほしい時にはしてほしくないはずです。なぜなら、もしあなたがしてほしいことを、あなたがしてほしい時にわたしがしたとしても、それは、わたしがわたしの時にわたしのやり方でするのと同じくらい良いものではないからです。繰り返しになりますが、長年にわたって私を本当に助けてくれたことのひとつは、神が私の祈りに必ず答えてくださるということです。もし私が神が知っておられることを知ったら、私が自分の祈りに答えるのとまったく同じように。あなたは、答えられなかった祈りを、神に感謝したことがありますか？　祈りのリストを作っている皆さん、私は何年も前からそうしていますが、時々楽しみで昔の祈りを読み返したりしています。注意しなければならないのは、多くのヒヤヒヤが起こることです。「おお、私はこんなこと祈ったのか！」そのように祈った自分を赦してくださいと、再び祈っている自分に気づくのです。私の祈りのリストは変わっています。私が変わっているからです。いつ

祈ったのか、日付、何を祈ったのか、とても具体的に書き、答えられ方、いつ答えられたか、色付けしたり、とにかく変わっています。でも、振り返ってみて、祈りの答えを見て、ほ〜！と思うのです。ほ〜！たくさんあります。「神様、ありがとうございます！」主がわたしを見て、こう言われているようです。「J.D、 一体どうしたのですか？　わたしを神としてくれませんか？　わたしが何をしているのかあなたはわからないと思いますが、ショックなことですが、わたしは自分が何をしているのかわかっています。わたしは自分がしていることを分かっています。」「ええ、でも、神さま…！　これを終結させてくれませんか？　あまりにも終結しないままです。とても不快な気分にさせられます。私は待ちたくありません。」しかし、23 節がやって来ます。ただそれは、あなたのタイミングではありません。23 節を待たなければなりません。「牧師さん、23 節とはどういう意味ですか？」おお、頼みますよ。エレミヤが言っていること、祈っていること、すべてです。
質問です： 神はその約束を果たされたのでしょうか？
まさに果たされました。それ以外にも。ただ、エレミヤが望んだタイミングではありませんでした。しかし、神のご方法で、神のタイミングで、神のご栄光のために行われました。私たちクリスチャンは、クリスチャンとしての生活において、早く心を落ち着かせ、ただ主を信頼し、曖昧さや不確かさ、コントロールできないことをよしとし、ただ主を信頼すべきだと思います。あえて言うなら、今夜ここにいる人、あるいはオンラインで見ている人の中には、21 節と 22 節、特に 22 節が、現在のあなたの人生を的確に描写している人がたくさんいるかもしれません。繰り返しますが、私たちが話しているのはエレミヤのことで、彼は言います。「主よ、あなたのもとに帰らせてください。もちろん、あなたが完全に私を拒絶されたのでなければ。」
わお！　なぜ、そんなこと祈るのですか、エレミヤ？「そう感じるからです。」では、私たちは今、信仰によってではなく、感情によって生きるのですか？　あなたは今、自分の感情が、神について真実であると知っていることに取って代わることを許しています。つまり、あなたがこのように感じていて、今、自分の感じ方が、神がなさることを決めているようです。だから今、神は事実上、あなたの感情に従うのです。神は、「あなたが学ぶべきことがあるから、このまま終わらせないようにしよう」と仰るようです。「このファイルを閉じてしまうと、これを経験して、終わりを設けないことでしか学べないことを学べなくなってしまうので、まだ閉じられません。」テストを受けて不合格になると、再試験を受けなければならないのはご存知の通りです。この試練を以前も受けたことがあると感じたことはありませんか？デジャブの繰り返しです。もしかして、神はあなたに必要なことを教えることができなかったのでしょうか？　だから、あなたはもう一度試験を受けなければならないのですね。兄弟と話をしていてちょうど本当に大変な時期でした。私は伝えようとしていました。どの程度伝わったか分かりませんが、出来る限り伝えました。いわゆる「アフター・ビフォー/以後・以前」 「アフター・ビフォー」とはどういうことかというと、あなたはそれを経験していて、もしあなたが「アフター/以後」に早送りできるようであればそして、アフターはあるのですが、それは「ビフォー/以前」をより楽にしてくれます。「アフター・ビフォー」です。言い換えれば、あなたが信仰によって理解し、信仰によって信じる時、なぜなら、見ることが信じることではなく、信じることが見ることだからであり、もしあなたが信じさえすれば、あなたは生ける者の地で神のいつくしみを見るでしょう。これで締めくくりたいと思います。私にとって人生の聖句です。詩編 27 編 13 節、14 節。少し解説させてください。これはイスラエルの甘美な詩人ダビデのことばです。彼はどん底にいます。彼は諦めかけていて、降参しています。それほど酷かったのです。

この時点でダビデに何が起こっていたのか、正確には分かっていません。それは神の意図によるものです。というのは、それが何であるかを正確に知っていれば、それを否定してしまうからです。
「まあ、それは私の状況ではない」「私には当てはまらない」という旗印のもと。そのために終わりが決められておらず、自分たちの経験で空白を埋めることができます。だから、使徒パウロのように、肉のとげがある場合は、神の主権によって、それを未定義にしておく必要があると判断されたのだと私は信じています。（Ⅱコリント　12:7）
なぜなら、もしそれが正確に分かっていて、それが自分たちが対処するものでないなら、それを切り捨てることになるからです。「私はそのことで悩んでいません。それは私にとっては問題ではありません。私にはそのトゲはありません。」しかしそうやって汎用性を残すと、それが適用できます。それはダビデの場合も同様です。その状況がどうであれ、諦めようとするほどひどいものでした。13 節でダビデはこう言います。「私は心を失っていただろう」「そんなところまで来てしまった。」「...でなければ」エレミヤとは違う「…でなければ」です。「神が、私たちのことを完全に忘れていなければ。」いいえ、これは別の「...でなければ」です。この「...でなければ」は、「主への確信を思い出していなければ、諦めかけていたところでした。」「私が思い出していなければ」「生ける者の地で、主のいつくしみを見ると私が確信するまでは」それが 13 節です。詩編 27 編の最後の 14 節は面白いです。鋭い角を曲がって、諦めかけていたところから、自分自身と対話するようになるからです。これは独り言とは違います。自分自身に語ることです。こう言うことです。「坊や、座りなさい。話がある。」あなたは自分自身に語り、自分に思い出させる必要があります。ダビデが自分にこう言っているようです。「ダビデよ、待ちなさい。」また出てきました。
「待っていなさい。ただ待ちなさい。あなたは主のいつくしみを見るでしょう。ただ主を待ち望みなさい。強くあれ、雄々しくあれ。そして、待ち望みなさい。」
「強くあれ、雄々しくあれ。では行きましょう！」私はこの方が好きです。「強くあれ！」分かりました。「雄々しくあれ！」分かりました。さぁ行きましょう！「いいえ、待ちなさい。」（がっくり）待たなければなりません。私は何を待つのでしょうか？　主のいつくしみを見るために主を待ち望むのです。あなたは見るでしょう。子どもの頃を思い出してください。親として子ども達に言いますよね。「ちょっと待ってなさい。すぐに分かるから。」私は待ちたくありません。今すぐ見たいです。だから私たちがそうする時はいつも 8 歳児のようです。私たちはそのように行動します。考えてみれば、それは基本的に霊的な未熟さなんです。もう一度、これで締めくくります。そこには「アフター・ビフォー/以後・以前」があります。あなたは主のいつくしみを見るでしょう。ところで、生ける者の地とは、天のこちら側です。
「ええ、でも、これは本当に酷いです。」いえ、あなたは見ると確信を持つことができますただ信じなさい。待っていなさい。あなたは生ける者の地で主のいつくしみを見るでしょう。「ああ、神がどうなさるのか私には分かりません。」大丈夫です。神はご自分がどうなさるのか知っておられます。「神がなさる方法が分かりません。」大丈夫です。神はご自分がなさる方法を知っておられます。「私には神がいつそうなさるのか分かりませんが、早くして欲しいのは確かです。」「いや、大丈夫です。神はご自分がなさる時を知っておられます。」実際に、これは良いことなのですが、その状態から、この状態に移行することができます。「主よ、あなたがこれをどうされるのか、楽しみでなりません。」なぜなら、パウロの時と同じように、主は手を伸ばし、パウロを掴んでくださったからです。パウロは完全に無力でした。ダビデは完全に無力でした。エレミヤは完全に無力でした。そして、神が駆けつけてくださいます。
「ええ、あなたは見るでしょう。あなたは見ます。わたしがすることを見ていなさい。わたしがすること

を見ていなさい。
カポノ、上がって来て下さい。皆さんお立ちください。祈りましょう。
なんという書の終わりでしょうか。「神よ、あなたが私たちを拒絶されるのでなければ！」アーメン。
ー（笑）ー　ああ主よ、あなたは素晴らしいユーモアがあられます。これは良いものです。主よ、私たちはこのことをよしとしなければなりません。私たちは信仰によってそうします。私たちはあなたに信頼します。あなたを待ち望みます。主よ、多くの人が落胆し、もがき苦しみ、ただ困難や試練、痛みや苦しみを経験していることを私は知っています。主よ、多くの人が落胆し、もがき苦しみ、ただ困難や試練、痛みや苦しみを経験していることを私は知っています。主よ、多くの人が落胆し、もがき苦しみ、ただ困難や試練、痛みや苦しみを経験していることを私は知っています。これは良い言葉、まさにぴったりの御言葉です、主よ。私たちはエレミヤに共感することができます。主よ、あなたはエレミヤの叫びに耳を傾けられました。あなたは彼の叫ぶ声に耳を傾けられました。あなたはそうなさいました。ですから主よ、私はただ、あなたが落胆している人を励まし、無力な人を助け、絶望している人に希望を与えてくださるよう祈ります。それがあなたのご性質だからです、神さま。主よ、感謝します。私たちはあなたを本当に愛しています。イエスの御名によって、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオへ
http://www.calvarychapelkaneohe.com/
Calvary Chapel Kaneohe47-525Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii　　筆記 hukuinn7